

「東アジア文化都市 2015 新潟市」オープニング 実施報告書

「東アジア文化都市 2015 新潟市」実行委員会事務局

1 【事業概要】

(1) 趣旨

「東アジア文化都市 2015 新潟市」のオープニングイベントとして、2015 年の開催都市である新潟市、青島市、清州市の芸能団やアーティストらによる公演を実施し、広く「東アジア文化都市 2015 新潟市」の開幕や 3 都市の文化を発信するとともに、芸能団相互及び市民との交流の機会とする。

また、開幕式典のほか、東アジア文化都市の意義や取り組み内容などに関するシンポジウムを実施し、開催都市間及び市内外の関係団体と知見の共有を図り、事業推進に資する。

イベント終了後にはレセプションを開催し、新潟市の食文化や伝統芸能でおもてなしをするとともに、関係者間の交流の深化を図る。

(2) 開催日時

平成 27 年 2 月 27 日（金） ※中韓訪問団滞在期間：2/26（木）～2/28（土）

(3) 会場

新潟県民会館大ホール、りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 能楽堂 ほか

(4) 行事内容

開幕式典・シンポジウム、オープニングイベント、レセプション ほか

※各行事の詳細については、後記実施概要のとおり

2 【参加者】

(1) 行政団（25 名）

青島市

李文革 文化広電新聞出版局 副局長 ほか 5 名

清州市

李承勳 市長 ほか 8 名

(2) 芸能団（40 名）

・青島市（19 名）

中国チャルメラ吹奏 2 名

青島市群衆芸術館 3 名

青島鴛鴦螳螂拳倶楽部 7 名

青島市歌舞劇院有限会社 7 名

・清州市（21 名）

清州市立舞踊団 14 名

ノリマダン ウルリム 6 名

新聞記者 1 名

3 【日程】

日付	時間	内容	
2/26 (木)	20:30 22:00～23:00	訪問団新潟空港到着 (KE763) 歓迎夕食会「ホテル日航新潟 (桃李)」 ホテル日航新潟 泊	
2/27 (金)	9:30～12:00	リハーサル	<清州市行政団> 8:30 ホテル発 9:00 今代司酒造見学 10:00 北方文化博物館見学 11:00 昼食(北方文化博物館)
	12:30～12:50 13:00～15:30 16:00～18:30 19:00～20:30	3 都市代表者歓談「新潟県民会館 (談話室 B)」 オープニングイベント「新潟県民会館 (大ホール)」 開幕式典・シンポジウム「りゅーとぴあ (能楽堂)」 レセプション「ホテル日航新潟 (31 階展望室)」 ホテル日航新潟 泊	
2/28 (土)	7:30 9:30	<青島市芸能団・清州市訪問団> 新潟空港到着 新潟空港出発 (KE764)	<青島市行政団> 9:00 ホテル発 9:20 今代司酒造見学 10:20 北方文化博物館見学 11:00 昼食(北方文化博物館) 12:20 新潟駅到着 13:13 新潟駅出発 (Max とき 326 号)

4 【実施概要】

(1) 訪問団新潟空港到着

日時：2月26日（木）20:30

会場：新潟空港 国際線到着ロビー

新潟市参加者：長井文化スポーツ部長、鈴木東アジア文化都市担当課長ほか



出迎え体制



到着の様子



到着の様子



にいがた観光親善大使による花束贈呈

(2) 歓迎夕食会

日時：2月26日（木）22:00～23:00

会場：ホテル日航新潟「桃李」

出席者：新潟市 山口副市長、長井部長、鈴木課長
青島市・清州市訪問団



山口新潟市副市長挨拶



歓談の様子

(3) リハーサル

日時：2月27日（金）9:30～12:00

会場：新潟県民会館「大ホール」



リハーサルの様子

(4) エクスカーション（清州市行政団）

日時：2月27日（金）9:00～12:00

会場：今代司酒造、北方文化博物館

参加者：清州市行政団



今代司酒造での酒蔵見学



試飲体験



北方文化博物館（豪農の館）見学



昼食の様子

(5) 3都市代表者歓談

日時：2月27日（金）12:30～12:50

会場：新潟県民会館「談話室B」

参加者：新潟市 篠田市長、山口副市長、長井部長

青島市 李文革副局長、清州市 李承勳 市長

何平中華人民共和国駐新潟総領事、趙建熙駐新潟大韓民国韓国総領事



歓談の様子

(6) オープニングイベント

2015年東アジア文化都市の各都市を代表する芸能団による公演の披露

日時：2月27日（金）13:00～15:30

会場：新潟県民会館「大ホール」

プログラム：

○オープニングアクト 音魂『蒼月』

○開演

主催者挨拶 新潟市長 篠田 昭

文化親善大使ビデオメッセージ 小林 幸子

文化親善大使メッセージ&歌 Negicco『サンシャイン日本海』

○第1部

【清州市】清州市立舞踊団『花扇舞』『珍島太鼓踊り』

ノリマダン ウルリム『サムルパングッ』

【青島市】中国古箏演奏 趙濤『日中韓名曲メドレー』

青島市歌舞劇院有限公司『扇韻』

中国チャルメラ吹奏 戦春東『故郷の懐かしき言の葉』

青島鴛鴦螳螂拳俱樂部『中国武術』

【新潟市】にいがた総おどり『永島流新潟樽砵』『新潟下駄総踊り』

○第2部

新潟から世界へ Hilcrhyme『リサイタル』『トラヴェルマシン』『友よ』『ツボミ』

『FLOWER BLOOM』『春夏秋冬』『大丈夫』『YUKIDOKE』

○フィナーレ

来場者：約1,600名



会場の様子



アタック映像



【オープニングアクト・新潟市】音魂



【司会】中村博和



【主催者挨拶】新潟市長 篠田昭



【文化親善大使ビデオメッセージ】小林幸子



【文化親善大使メッセージ&歌】Negicco



【清州市】清州市立舞踊団



【清州市】 ノリマダン ウルリム



【青島市】 中国古筝演奏 趙涛



【青島市】 青島市歌舞劇院有限会社



【青島市】 中国チャルメラ吹奏 戦春東



【青島市】 青島鴛鴦螳螂拳俱樂部



【新潟市】 にいがた総おどり



新潟から世界へ Hilcrhyme



フィナーレ

(7) 開幕式典・シンポジウム

日時：2月27日（金）16:00～18:30

会場：りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館「能楽堂」

プログラム：

○プレコンサート 薫風之音

《開幕式典》

○主催者挨拶 新潟市長 篠田 昭
文化庁長官 青柳正規

○来賓挨拶 清州市長 李承勳
青島市文化広電新聞出版局副局长 李文革

《シンポジウム》

○基調講演

講師：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 芸術・文化政策センター
一主席研究員/センター長 太下義之

題名：「東アジア文化都市」～意義と期待される効果～

○成果発表

発表者：横浜市文化観光局長 中山こずゑ

題名：事業とその成果 東アジア文化都市 2014 横浜

○パネルディスカッション

パネリスト：新潟市長、清州市長、青島市文化広電新聞出版局副局长

モデレーター：太下義之

テーマ：3都市の文化や1年間の取り組みについて

《芸能披露》

【清州市】ノリマダン ウルリム

清州市立舞踊団

【青島市】中国古箏演奏 趙濤

中国チャルメラ吹奏 戦春東、戦翠

【新潟市】新潟楽所

《エンディング》

○未来へのメッセージ

発表内容：別紙 資料、パネルディスカッション記録参照

来場者：約 300 名



【プレコンサート】薫風之音



【主催者挨拶】新潟市 篠田昭市長



【主催者挨拶】文化庁 青柳正規長官



【来賓挨拶】清州市 李承勲市長



【来賓挨拶】青島市 李文革副局長



記念撮影



【基調講演】太下義之氏



【成果発表】横浜市 中山こずゑ局長



シンポジウム舞台全景



【シンポジウム】モデレーター 太下氏



【シンポジウム】パネリスト 篠田市長



【シンポジウム】パネリスト 李市長



【シンポジウム】パネリスト 李副局長



【芸能披露】清州市 ノリマダン ウルリム



【芸能披露】清州市 清州市立舞踊団



【芸能披露】青島市 中国古箏演奏 趙濤



【芸能披露】青島市中国チャルメラ吹奏 戦春東、戦翠



【芸能披露】新潟市 新潟楽所

(8) レセプション

日時：2月27日（金）19:00～20:30

会場：ホテル日航新潟「31階展望室」

参加者：新潟市 篠田市長、木村理事、加藤部長、長井部長ほか

文化庁 青柳長官ほか

関係都市（青島市、清州市、横浜市、奈良市、京都市、静岡市、鶴岡市、

金沢市、浜松市、篠山市、十日町市）

実行委員会委員など文化関係者



3都市代表による花火玉へのメッセージ記入



篠田新潟市長の挨拶



志田新潟市議会議長の挨拶



古町芸妓による舞の披露



料理長による料理の説明



花火の打ち上げ



芸妓との記念撮影



福田実行委員会副会長の中締め



会場全体の様子



天ぷらの実演コーナー



日中韓のお酒コーナー



東アジア文化都市・候補都市紹介コーナー

5 【成果】

オープニングイベントでは、本市市民をはじめとした約1,600人の来場者や多くの報道陣が訪れた会場で、3都市を代表する芸能団が一堂に会して磨き上げられた芸能を披露し、事業の開幕や3都市の文化を広く発信することができた。

また、ゲストとして出演したHilcrhymeや文化親善大使として出演したNegiccoのウェブサイト等でもイベントについて触れられ、事業の情報発信強化に繋がった。

式典・シンポジウムでは、講師による本事業の意義などについての講演や前年開催都市である横浜市による取り組みの紹介を行ったほか、3都市の代表によるパネルディスカッションでは、3都市の特徴や今後の取り組みなどの意見交換も行い、開催都市間及び市内外の関係団体と知見の共有をし、事業推進に資することができた。

レセプションでは、本市の誇る伝統文化や食文化で関係者をもてなすとともに、本市の文化をPRし、関係者同士が情報交換もできる有益な場とすることができた。



略歴

太下 義之(おおした よしゆき)

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 経済・社会政策部兼芸術・文化政策センター主席研究員/センター長

1984年(昭和59年)3月 慶應義塾大学経済学部卒業

同年 4月 森ビル株式会社入社(企画、人事、経理を担当)

1991年(平成3年)3月 同社退社

同年 4月 三和総合研究所(現「三菱UFJリサーチ&コンサルティング」)入社

1996年(平成8年)7月 同社主任研究員

2000年(平成12年)7月 同社に「芸術・文化政策室」(現「芸術・文化政策センター」)を設立、同室の室長を兼務

2006年(平成18年)10月 研究機関誌『季刊 政策・経営研究』編集長を兼務

2009年(平成21年)7月 三菱UFJリサーチ&コンサルティング 主席研究員

약력

太下 義之 おおした よしゆき

미쓰비시UFJ리서치&컨설팅주식회사 경제·사회정책부 겸 예술·문화정책센터 수석연구원/센터장

1984년 3월 게이오기주쿠대학교 경제학부 졸업

4월 모리빌딩 주식회사 입사(기획, 인사, 경리 담당)

1991년 3월 동 사 퇴사

4월 산와종합연구소(현「미쓰비시UFJ리서치&컨설팅」) 입사

1996년 7월 동 사 주임연구원 역임

2000년 7월 동 사 「예술문화정책실」(현「예술문화정책센터」)를 설립, 동 실의 실장을 겸임

2006년 10월 연구기관지『계간 정책·경영연구』 편집장을 겸임

2009년 7월 미쓰비시UFJ리서치&컨설팅 수석연구원

简历

太下 义之

三菱UFJ調査&咨询株式会社 经济·社会政策部兼艺术·文化政策中心主席研究员/中心长

1984年3月 庆应义塾大学经济系毕业

同年 4月 进入森大厦股份有限公司(负责策划、人事、财会)

1991年3月 辞职

同年 4月 进入三和综合研究所(现“三菱UFJ市场调研咨询顾问公司”)

1996年7月 晋升为同公司主任研究员

2000年7月 在公司中设立“艺术文化政策室”(现“艺术文化政策中心”)、兼任该室室长

2006年10月 兼任研究机关杂志《季刊 政策与经营研究》主编

2009年7月 晋升为三菱UFJ市场调研咨询顾问公司 主席研究员

Brief personal history of Mr. Yoshiyuki OSHITA

Chief Director / Principal Consultant, Center For Arts Policy & Management,

Mitsubishi UFJ Research and Consulting, Co., Ltd., /Japan

·graduated from Keio University Faculty of Economics in 1984

·worked for Mori Building Co.,Ltd. (planning, personnel and accounting section.)from April 1984 to March 1991.

·worked for Sanwa Research Institute Corporation (Mitsubishi UFJ Research and Consulting, at present.) from April 1991.

·became a chief researcher in July 1996.

·established the Policy Bureau of Art and Culture (The Policy Center of Art and Culture, at present) and became a head of the bureau in July 2000.

·became a director of the research journal: Quarterly Journal of Public Policy & Management in 2006.

·became a chief researcher of Mitsubishi UFJ Research and Consulting in 2009.

2015年2月27日
「東アジア文化都市2015新潟市」オープニング

「東アジア文化都市」 ～意義と期待される効果～



三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 芸術・文化政策センター

主席研究員 太下 義之

1

「東アジア文化都市」について

1. 「東アジア文化都市」について

2

- *「東アジア文化都市」の「東アジア」とは、日本・中国・韓国の3か国のこと。
- *これら3か国において、文化芸術による発展を目指す都市を選定。
- *その都市において、現代の芸術文化や伝統文化、また多彩な生活文化に関連する様々な文化芸術イベント等を実施。

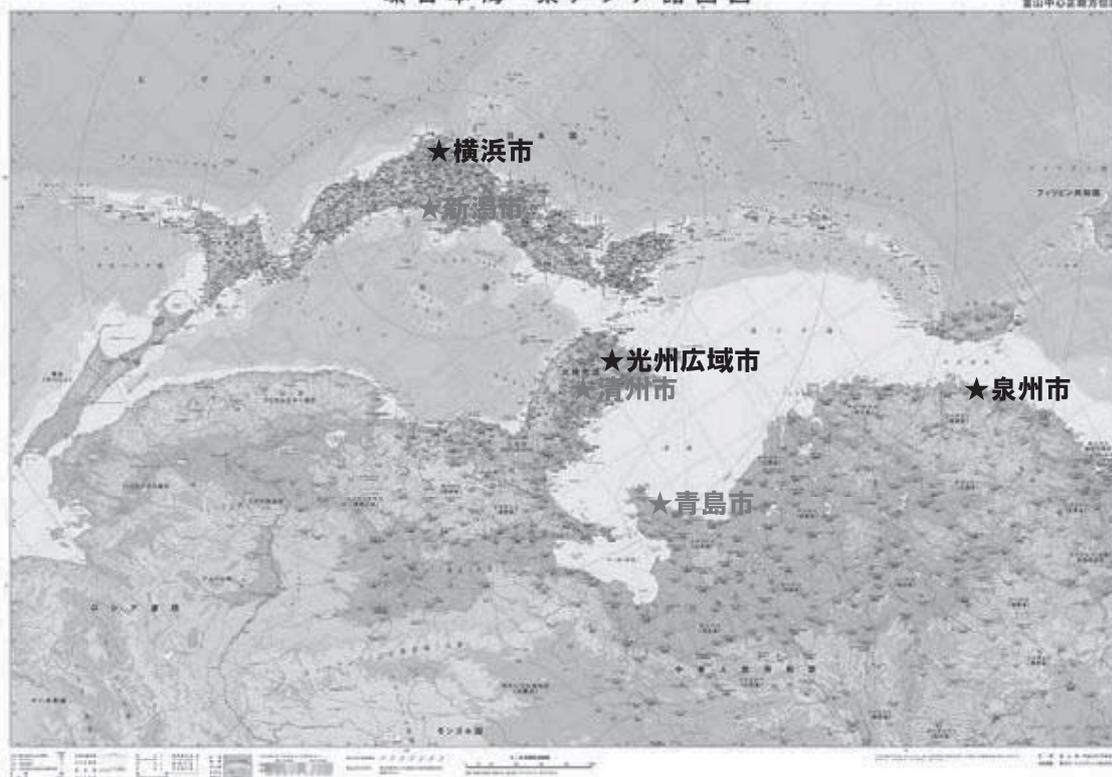
1. 「東アジア文化都市」について

3

- *「東アジア文化都市」の開催目的は、東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を図ること。
- *また、東アジア文化都市に選定された都市が、その文化的特徴を活かし、文化芸術・クリエイティブ産業・観光の振興を推進することにより、事業実施を契機として継続的に発展することも目的。

1. 「東アジア文化都市」について

環日本海・東アジア諸国図



2

「東アジア文化都市」のモデル： 「欧州文化首都」について

2. 東アジア文化都市のモデル:「欧州文化首都」

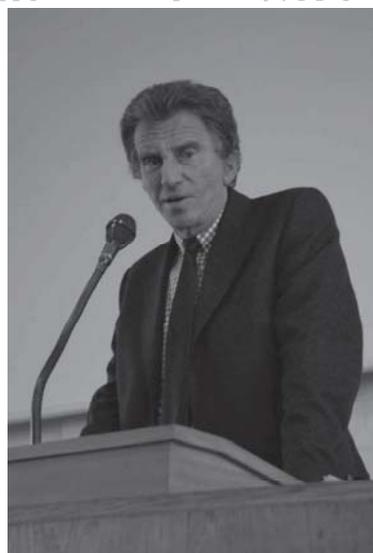
6

- EU加盟国の中から、毎年「欧州文化首都」として都市を選定、年間を通じて様々な芸術文化に関する行事を開催
- EU域内の緩やかな歴史的・文化的共通性と多様性を重視する「多様性の中の統合」という理念と密接に関連しており、域内の文化的共通性と多様性を同時に表現。
- 地域政策の観点から、地域活性化と観光客誘致が期待され、地域の経済的な発展の契機として位置づけ。
- 更に長期的な文化活動を通じて、市民の連帯意識の向上や政治参加を促すことが期待。

2. 東アジア文化都市のモデル:「欧州文化首都」

7

- ギリシャの文化大臣メリナ・メルクーリ(当時)とフランスの文化大臣ジャック・ラングにより、「欧州文化都市 (European City of Culture)」制度が提唱され、1985年、アテネを初回の開催都市として開始。2005年に改称。



欧州文化首都の事例：① ロッテルダム(2001)

8

◆ロッテルダムの概要

- オランダ最大の産業都市。人口規模では第2の都市(約62万人)。
- 港湾都市として大西洋貿易の隆盛とともに発展。運河の利用で拡大した貿易が、19世紀末のさらなる急速な経済発展につながった。
- 第2次世界大戦の爆撃で都市部は徹底的に破壊されたが、行政と市民が協力し合ってまちづくりを進めた。現在は中世の町並みと、近代都市の姿の両面を合わせもつ。



欧州文化首都の事例：① ロッテルダム(2001)

9

◆文化プログラム：タウス・イン・ロッテルダム

- ロッテルダムは第二次世界大戦で旧市街が破壊され、復興されたという歴史があるので、20世紀の建物が多。
- こうした背景のもと、20世紀に建設されたれた普通の市民の家24軒を舞台として、インテリアを建設当時のものに復元して、1つ1つの家の歴史(誰が最初に住んで、いつ引っ越してきたか等)の解説とともに公開展示。
- 自転車で見回れるようなルート作りも行い、約15万人の来場者があった。また、ボランティアとして550人が協力。
- 期間中、各建築の居住者にはホテルに住んでもらい、会期後に戻ってもらう仕組み。中にはそのまま引っ越した人もいた。
- 24軒のうちの4軒は今でもミュージアムとして見学可。

欧州文化首都の事例：① ロッテルダム(2001)

10

◆文化プログラム : タウス・イン・ロッテルダム



欧州文化首都の事例：① ロッテルダム(2001)

11

◆欧州文化首都の成果

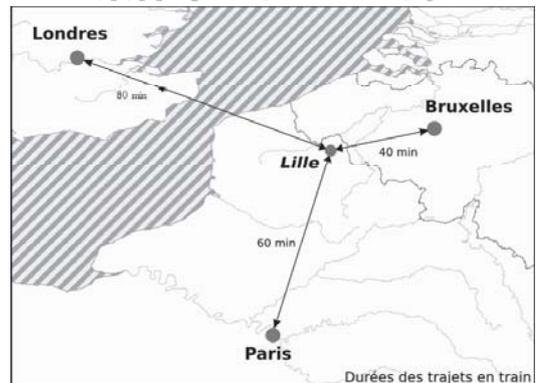
- 多くの市民から「ロッテルダムがこんなに面白い場所だとは知らなかった」という声が聞かれた。
- 様々な地域の人たちが参加していたが、市民が自分たちの暮らしているまちのことがよく分かるようになった。ロッテルダムでは一般に新築住宅に住むのではなく、以前からあった住宅に住むので、自分たちが住んでいる住宅がどういった場所だったのかといったことに意識を持てるようになった。
- その結果、それぞれが自分の暮らしている地域を誇りに思うような自意識が芽生えた。
- 様々なプロジェクトの成功を通じて、地域の連帯感が生まれた。
- 大小含めて30程度のプロジェクトが、何らかの形で継続している。

欧州文化首都の事例：② リール(2004)

12

◆リールの概要

- フランス北端のノール地方の中心で、北フランス最大の工業都市。1994年に英仏海峡トンネルが完成し、ロンドン～パリ、ブリュッセルを結ぶ国際高速列車のユーロスターが発着する町として、脚光を浴びた。人口は約23万人。
- 14世紀にはラシャ産業、16世紀には毛織物産業で発展し、今日は織物産業や機械産業を中心とした工業都市となっている。



欧州文化首都の事例：② リール(2004)

13

◆文化プログラム：市役所でのプロジェクト

- ルーブル美術館やマドリッド美術館の作品を、市民がたくさん来訪するリール市役所で展示。
- 12か月間、各月ごとに計12の市役所で絵画を展示。
- なぜ市役所かというと、文化に関心のない市民でも手続きに来る場所だから。一般の人々が美術館に来ないのであれば、美術館の方が出かけていくという考え。たとえば、子どもが生まれた後、家庭で絵画のことを話題になると家族で美術館に行くかもしれないという小さなきっかけを大切にしたい。

欧州文化首都の事例：② リール(2004)

◆欧州文化首都の成果②

- ルーブル美術館のランス別館誘致は、欧州文化都市がきっかけ。
- ルーブル美術館の作品をリール市役所に展示。湿度調整、セキュリティなどの懸念もあったが、美術品を傷つけることなく、2004年に終了。この事業を機会に信頼を築くことができた。その実績を踏まえ、また、市の投資もあり、ルーブルの別館が実現。



欧州文化首都の事例：② リール(2004)

◆欧州文化首都の成果

- 長期的効果として、街のイメージが変化。リールは、産業が衰退し「灰色の街」というイメージがあったが、「カラフルな街」、楽しいイメージを印象づけることができた。
- 従来は失業率の高い街というイメージがあったが、たくさんの観光客が訪れ、メディアにも紹介されるなど、市民の誇りが高まった。
- 文化プロジェクトにたくさんの訪問者が訪れることにより、文化の企画に対する「正当性」を生んだ。正当性が生じたことにより、より多くの文化プロジェクトが可能になるという良い循環ができた。

欧州文化首都の事例：② リール(2004)

◆欧州文化首都の成果

- リール2004の経験を活かし、文化プロジェクト「リール3000」を継続。
- リール2004の時のアート・ディレクターがそのまま活躍し、2004に整備した文化施設もそのまま利用。



欧州文化首都の事例：③ リンツ(2009)

◆リンツの概要

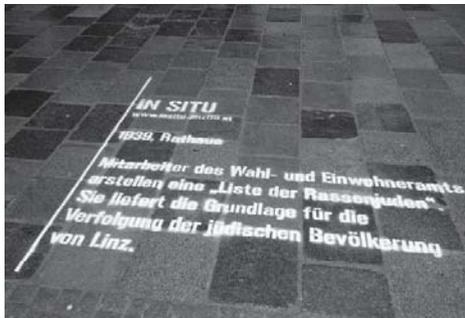
- リンツはオーバーエスターライヒ州の州都で、ウィーン、グラーツに次ぐオーストリア第3の都市。人口は約19万人。
- 第二次世界大戦後は、ウィーンとドイツのミュンヘンをつなぐ結節点として、工業が飛躍的に発展を遂げた。



欧州文化首都の事例：③ リンツ(2009)

◆文化プロジェクト：イン・サイチュ(その場で)

- リンツ市近郊がヒトラー生誕の場所であり、ヒトラーと縁が深い土地であることを背景として、1938年から1945年までの期間に、リンツにおけるナチスの活動やナチスの引き起こした事件の内容を、その現場の65か所のスポットに文字で記す、というプロジェクト。
- 観光客や市民が書かれた文字の上を通ることで、文字が次第に消えていくように作られており、ナチスによって引き起こされた悲劇と、その記憶が風化していく過程を可視化する、というコンセプトにより企画されたプロジェクト。



欧州文化首都の事例：③ リンツ(2009)

◆欧州文化首都の成果

- 欧州文化首都を開催したことで、住民がリンツ市に持つイメージが大幅に改善。多くの住民はこれまでリンツを「灰色の産業都市」として捉えていたが、欧州文化首都のおかげで文化的な街であるという認識を深め、それが住民の自信と誇りにつながった。
- 市の行政にとってもプラスの影響があった。欧州文化首都事業をきっかけに、文化政策を担当する部門と観光を担当する部門の連携がとれるようになり、現在も文化芸術を目玉にした観光客誘致の施策などに両部門が共同で取り組んでいる。
- 欧州内におけるリンツの知名度やイメージが向上し、文化都市として大国の首都に次ぐグループの地位を確保できるようになった。

欧州文化首都の事例：④ エッセン(2010)

20

◆エッセンの概要

- 鉄鋼業と石炭産業によって
 繁栄・人口増加。
- 東のドルトムント、西のデュイスブルクとともに、ルール工業地帯の核のひとつに。
- 中でもエッセンは、鉄鋼業の財閥クルップ家の本拠地として、ルール工業地帯全体を牽引。
- その後は産業構造の転換もあり、人口が減少。現在は約57万人。



欧州文化首都の事例：④ エッセン(2010)

21

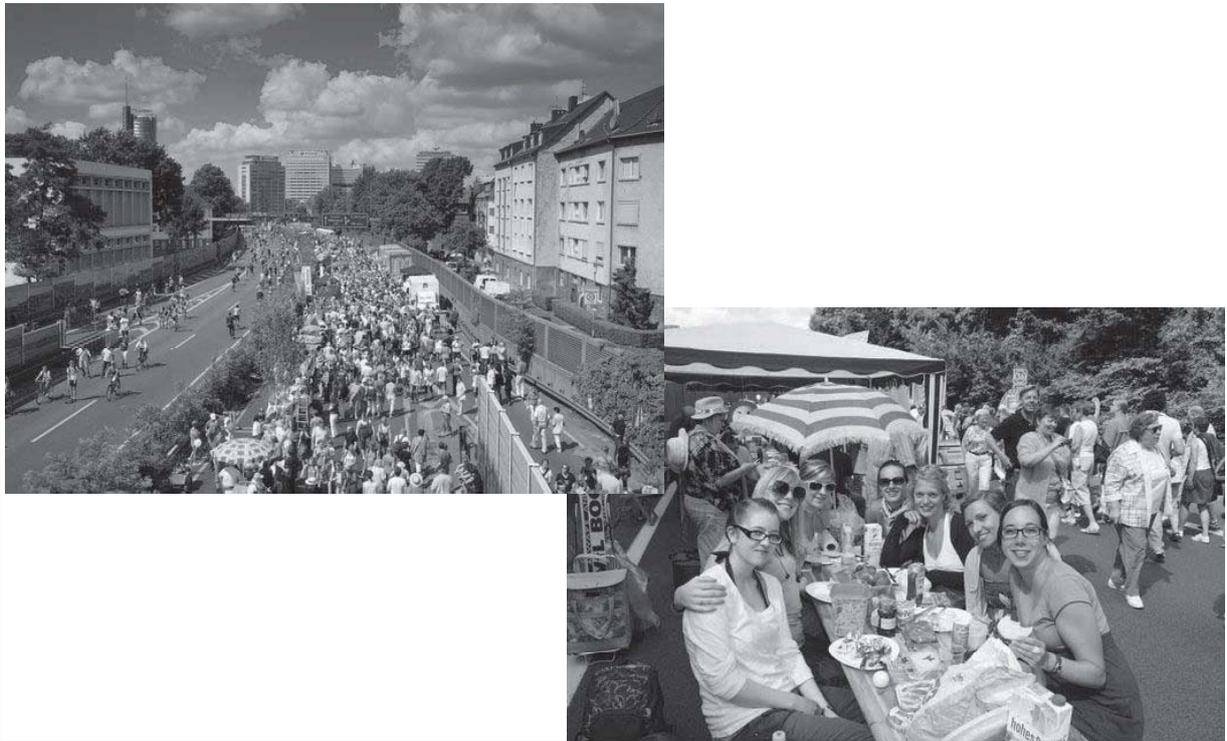
◆文化プログラム : 高速道路の静かな日

- ルール地方を東西に横断する高速道路A40号線の、デュイスブルグからドルトムントに至る約60キロを一日閉鎖し、高速道路上で様々な文化交流を行う文化プログラム。
- 東行き車線は自転車とスケーターに解放された。
- 西行き車線には 2万台のテーブルが並べられた。このテーブルは、何らかの文化的なプログラムをそこで行うことを条件として自由に使うことができるようにしており、市民バンドが演奏を披露したり、手工芸のワークショップが催されたりした。
- 当日は好天にも恵まれ、300万人が集まった。

欧州文化首都の事例：④ エッセン(2010)

22

◆文化プログラム : 高速道路の静かな日



欧州文化首都の事例：④ エッセン(2010)

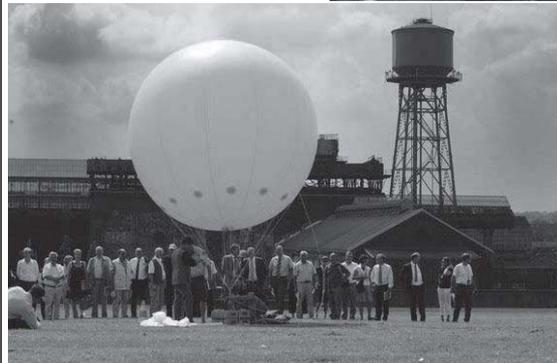
23

◆文化プログラム : Shaft Signs(立杭の記憶)

- このプログラムでは、エッセン市内の立杭など、鉱山関連施設があった場所のいたるところで直径5m程度の風船を上げた。
- それぞれの風船の下では、往時の様子を記録した写真の展示を行ったり、その施設で昔働いていた人々が集まり、鉱夫の歌を歌うなど、関連するプログラムを実施。
- 過去数十年の間で、エッセンがどれだけの変化を遂げたのかを表現し、記録として残すことを目的としたプロジェクト。
- ほとんどの施設は既に取り壊され、現在は住宅やその他施設が建てられている。その様子を航空写真に写すことで、その変化の大きさを視覚的に表現することができた。

欧州文化首都の事例：④ エッセン(2010)

◆文化プログラム : Shaft Signs(立杭の記憶)



欧州文化首都の事例：④ エッセン(2010)

◆欧州文化首都の成果

- 地域外の人がルール地域に持つイメージを変えられたことが、一つの大きな成果。ルール地域はこれまで「古く、汚い、黒い空に覆われた産業都市」というイメージを持たれていたが、ルール2010が新聞やテレビに大きく取りあげられたことで、「文化的な地域」というイメージが根付いた。
- また、その結果として観光客も継続的に増加しており、文化産業という新たな産業を興すきっかけにもなった。
- そして、住民の意識が変わったことが最も大きな成果。工業が衰退することでルール地域の住民は自信を失っていったが、「ルール2010」は住民にとって地域の歴史を改めて認識するきっかけとなり、ルール地域全体での一体感が醸成された。
- また、地域外の人々がルール地域に対して持つイメージが変わったことで、住民が自らの都市について自信と誇りに思うことができるようになった。

2

「東アジア文化都市」: 意義と期待される効果

「東アジア文化都市」:意義と期待される効果

27

- 「欧州文化首都」は単なる文化イベントではなく、「都市が変化するための触媒」「都市の長期的文化発展戦略」。
- 「東アジア文化都市」においては、欧州文化首都が行ったさまざまなプログラムと同様に、各都市が持つ文化資源やポテンシャルを踏まえ、さまざまなチャレンジが可能と思料。

「東アジア文化都市」：意義と期待される効果

- 「国と国」の政治的な関係が困難な情勢だからこそ、文化による交流が必要不可欠。
- また、「国と国」との関係だけではなく、「都市と都市」の交流をより積極的に推進していくことが必要。
- 「東アジア文化都市」が、その目的に掲げている通り、「東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進」することができれば、そのことは東アジア3カ国の平和的な関係の構築にも大きく寄与することとなる。

「東アジア文化都市」：意義と期待される効果

- そして、「東アジア文化都市」の開催を通じて、東アジアの政治的紛争を平和的関係へと転換していくことができれば、それは日中韓の3カ国にとって未来へ向けての大きな希望となる。
- それは、十分に「ノーベル平和賞」の受賞に値する偉業となるのではないか。
- ノーベル平和賞は過去の実績が評価されるだけでなく、未来への希望や期待だけでも受賞理由となる。その象徴的な事例が前述した2009年のオバマ大統領の受賞。

ご静聴ありがとうございました。



三菱UFJリサーチ&コンサルティング 芸術・文化政策センター
主席研究員／センター長 太下 義之



中山 こずゑ

横浜市文化観光局長

1982年に日産自動車株式会社に入社。企画統括部長、ブランドマネジメントオフィス室長、ブランドコーディネーションディビジョン副本部長を歴任。その後、2011年横浜市文化観光局横浜魅力づくり室長を経て、2012年より現職。

나카야마 코즈에 요코하마시 문화관광국장

1982년 닛산자동차 주식회사에 입사. 기획통괄부장, 브랜드 매니지먼트 오피스 실장, 브랜드 코디네이션 분야 부분부장을 역임. 이후, 2011년 요코하마시 문화관광국 요코하마 매력조성실장을 거쳐 2012년 현직에 취임.

中山 Kozue

横浜市文化観光局局长

1982年进入日产汽车股份有限公司。先后担任企画部统筹部长、品牌管理办公室主任和品牌协调部副本部长。2011年任横浜市文化観光局横浜魅力创造室主任。2012年起担任现职。

Kozue Nakayama

(Director General of Culture and Tourism Bureau, City of Yokohama)

Joined Nissan Motor Co., Ltd. in 1982. Has served as the head of the Planning Management Dept., Director of the Brand Management Office, and Deputy Director of the Brand Coordination Division. After serving as the Director of City Brand Promotion Office, Culture and Tourism Bureau, City of Yokohama in 2011, she took up her current position in 2012.

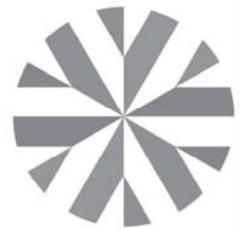
事業とその成果 東アジア文化都市2014横浜



日中韓芸術祭(2014. 9. 4)より「ヨコハマ盆ダンス」

交差する、人・アート・文化

東アジア文化都市
2014横浜
Culture City of East Asia
2014, YOKOHAMA



横浜市文化観光局長
中山 こずゑ

あうたびに、あたらしい
Find Your YOKOHAMA

Culture and Tourism Bureau



1

第5回日中韓文化大臣会合



2013年9月28日 韓国光州広域市にて



初代開催都市に正式決定

あうたびに、あたらしい
Find Your YOKOHAMA

Culture and Tourism Bureau



2

交流のパートナー



あうたびに、あたらしい
Find Your YOKOHAMA

Culture and Tourism Bureau



QUANZHOU, CHINA

泉州市



人口830万人
(福建省最大)
「海のシルクロード」



人形劇・伝統演劇・
切り絵・拳法・烏龍茶

あうたびに、あたらしい
Find Your YOKOHAMA

Culture and Tourism Bureau



GWANGJU, KOREA

光州広域市



人口150万人
「アジア文化中心
都市事業」

- ・光州ビエンナーレ
- ・光州国際映画祭
- ・国立アジア文化殿堂



あうたびに、あたらしい
Find Your YOKOHAMA

Culture and Tourism Bureau



5

横浜における事業コンセプト



“横浜のイノベーションの力”

あうたびに

- コラボレーションがイノベーションを起こす

Find Your YOKOHAMA

Culture and Tourism Bureau



6

6

「広報親善大使」の任命



まずは事業を知っていた

有名人を活用

進取の気風が横浜

若い世代への

アジアを意識



12月11日
親善大使に
「でんぱ組.inc」を任命

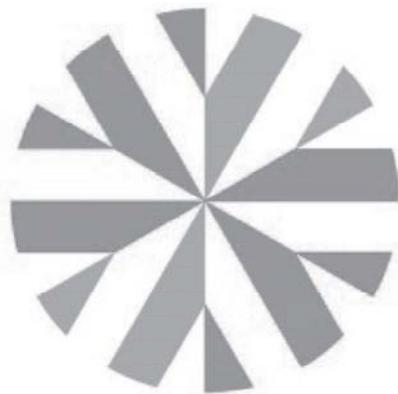
あうたびに、あたらしい
Find Your YOKOHAMA

Culture and Tourism Bureau



7

記録映像放映



東アジア文化都市
2014横浜
Culture City of East Asia
2014, YOKOHAMA

記録映像(約4分)をご覧ください

あうたびに、あたらしい
Find Your YOKOHAMA

Culture and Tourism Bureau



8

実施事業



実行委員会主催・共催事業

25



交流事業(泉州市・光州市)

11



パートナー事業

60

あうたびに、あたらしい
Find Your YOKOHAMA

Culture and Tourism Bureau



9

東アジア文化都市 友好協力都市協定



- 1 3都市の交流と友好の促進
- 2 民間レベルの交流の活性化
- 3 「東アジア文化都市」発展のための経験の共有と協力の推進
- 4 緊密な関係の維持と交流・協力事項の協議



泉州市 林副市长 横浜市 林市長 光州市 尹市長

今年はダンスで交流予定

あうたびに、あたらしい
Find Your YOKOHAMA

Culture and Tourism Bureau



10

第6回 日中韓文化大臣会合の横浜開催



日中韓文化 文化部長会合 第6回



韓国 金長官 下村文科大臣 中国 楊副部長



3大臣、文化庁長官、2015年選定都市市長等、横浜市長、横浜市会議長

横浜共同声明

- 1 横浜市・泉州市・光州広域市の文化交流を高く評価
- 2 毎年3か国から1都市ずつを選定
- 3 2015年の選定都市として、新潟市・青島市・清州市を選定
- 4 社会的課題を文化の力で解決するための知見の共有
- 5 ASEAN文化都市との連携の協議

あうたびに、あたらしい
Find Your YOKOHAMA

Culture and Tourism Bureau



11

事業を通じての学び



✓ 如何に近隣の文化を知らなかったか

✓ 「同異」を改めて知る

✓ Face to Faceの交流事業

✓ 次世代を育成を通じた相互理解

あうたびに、あたらしい
Find Your YOKOHAMA

Culture and Tourism Bureau



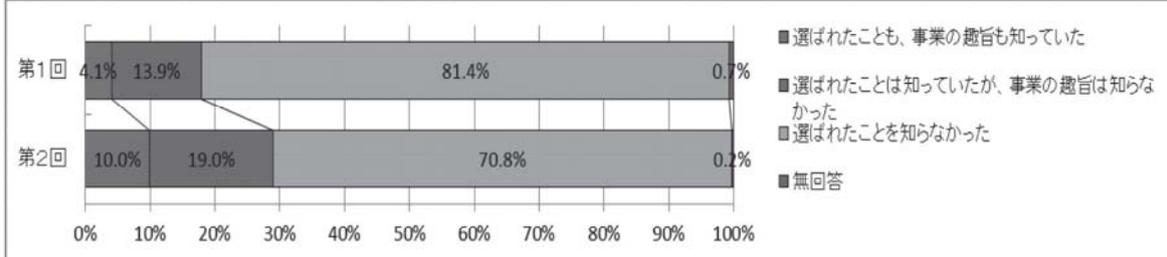
12

事業を通じての学び 2

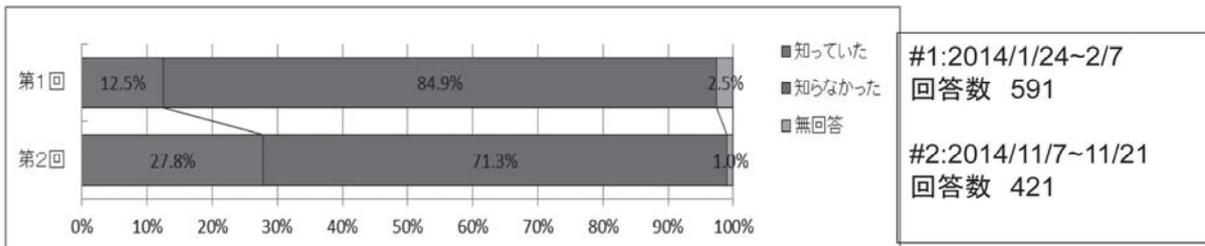


ヨコハマアンケートより

横浜市が「東アジア文化都市」に選ばれたことを知っていましたか？



横浜市で「東アジア文化都市2014」が開催されることを知っていましたか？



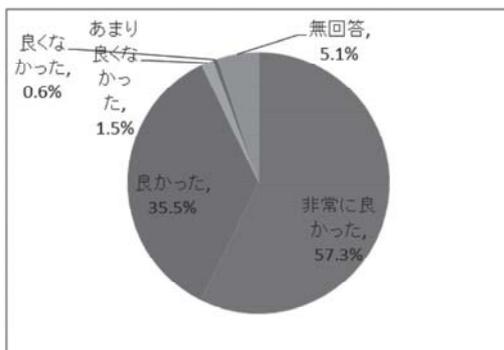
13

事業を通じての学び 3

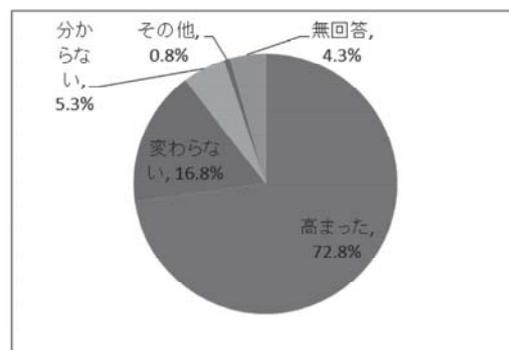


主催、共催、パートナー事業来場者調査より

- ・公演・催事の満足度は9割以上
- ・公演・催事に参加したことで東アジア文化への関心が高まった人は7割以上



満足度



東アジア文化への関心度

あうたびに、あたらしい
Find Your YOKOHAMA

Culture and Tourism Bureau



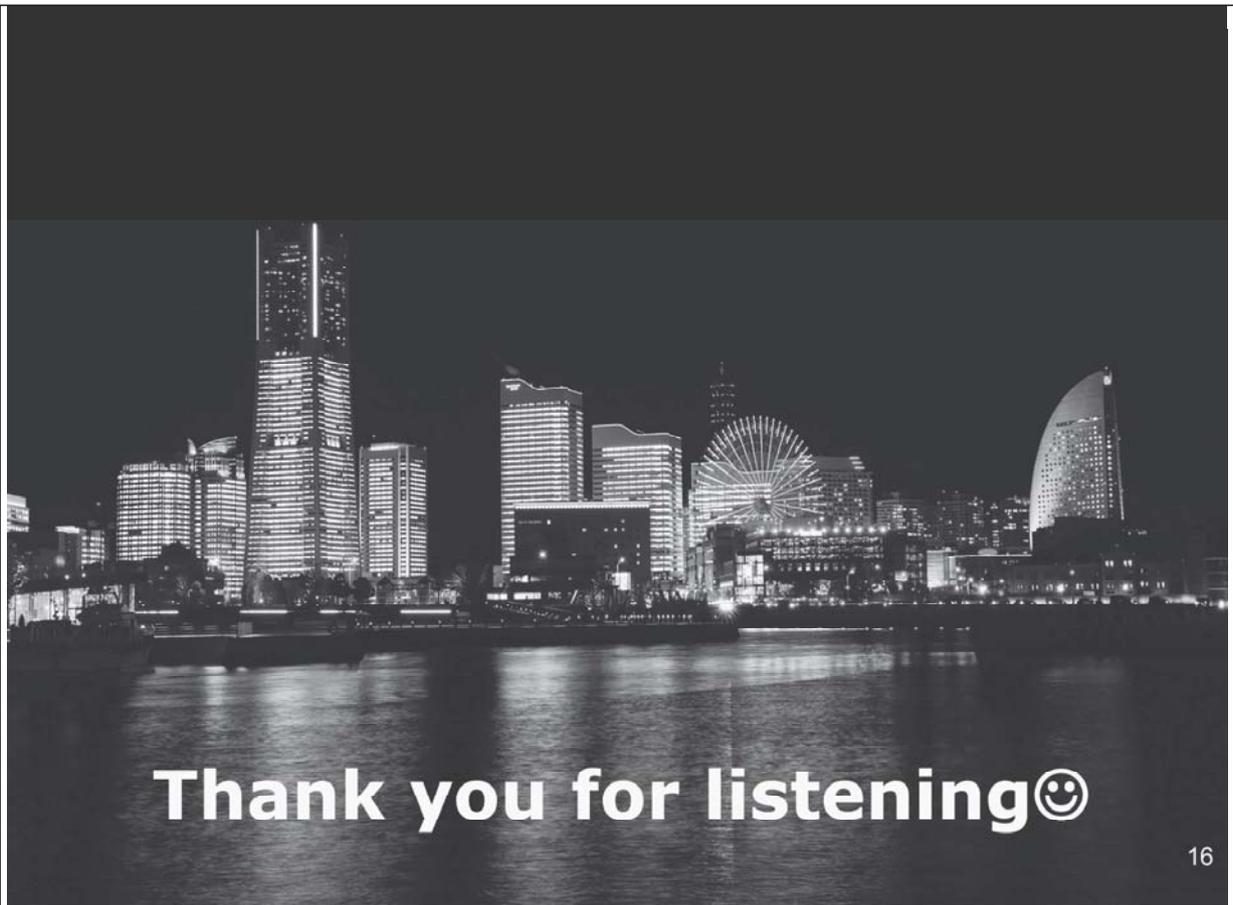
14

文化芸術のハブ都市として 世界に力強いメッセージを



あうたびに、あたらしい
Find Your YOKOHAMA

Culture and Tourism Bureau



Thank you for listening😊

16

「東アジア文化都市 2015 新潟市」オープニングシンポジウム
パネルディスカッション

日時 2015年2月27日(金)

会場 りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 能楽堂

パネリスト：篠田 昭 氏(新潟市長)

李 承勲 氏(清州市長)

李 文革 氏(中国青島市文化広電新聞出版局副局长)

モデレーター：太下義之 氏(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
芸術・文化政策センター主席研究員/センター
長)

(司会) お待たせしました。これより2015年東アジア文化都市の取り組みについて、パネルディスカッションを進めてまいります。

まず、本日のパネリスト、コーディネーターの皆さまをご紹介します。パネリストに新潟市長の篠田昭様、先ほどご挨拶を頂戴した韓国清州市長の李承勲様、中国青島市文化広電新聞出版局副局长の李文革様、コーディネーターに、先ほどご講演くださいました三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社経済・社会政策部兼芸術・文化政策センター主席研究員・センター長の太下義之様です。以上の皆さまでパネルディスカッションを進めてまいります。

ここからの進行はコーディネーターの太下様をお願いします。

(太下) これから3都市の代表の皆さまをお迎えして、パネルディスカッションを進めていきたいと思っております。ただ、時間が非常に限られていますので、あまり多くのことはお聞きできないかもしれません。そこで、あらかじめお聞きしたいことをパネリストの皆さんにお伝えしておくことにします。

1 巡目では、地元の新潟市の皆さんは新潟市のことをご存じだと思いますが、今回、東



アジア文化都市と一緒に取り組む清州市と青島市はどういった都市なのかということ、ぜひご紹介いただきたいと思っております。また、特にこの東アジア文化都市という事業が文化に注目した事業なので、どういう文化をお持ちなのかということ、ぜひご紹介いただきたいと思っております。

2 巡目では、東アジア文化都市という形で日本・中国・韓国の3都市が交流し

ていくこととなりますので、どういう交流をしようとしているのかということ、それぞれお聞きしたいと思います。また、今後、新潟に対してどういう文化をご紹介された

いのかということも、特に清州市と青島市の方からお聞きしたいと思っています。

まずは各都市がどんな都市でどんな文化をお持ちなのかというところを、篠田市長からお伺いしたいと思います。

1. 各都市の特徴・文化の特徴

1-1. 新潟市の紹介

(篠田) それでは、新潟市民の皆さまには説明するまでもないのですが、新潟はどういう町かということについて、映像を見ながらご説明させていただきます。



(以下、スライド併用)

#1

市民力に基づく文化創造の力が結構強いまちだと思っています。

#2

新潟市は大合併した町です。最大の港町と日本一の美田地帯が一緒になっています。

#3

田園には豪農文化が、港町にはおもてなしの柳都文化が根付いています。

#4

新潟市は江戸時代から繁華の港と知られている大変にぎやかな港町として発展し、いろいろと苦労を重ねながら、今度は対岸交流も発展させていこうということで、開港五港の一つにもなりました。今も料亭文化などが息づいているまちです。

#5

素晴らしい美田が広がっている新潟には、日本一のプレミアムライスである、これはイコール世界一と言っていいかと思うのですが、コシヒカリの産地でもあります。しかし、昔は胸まで浸かる大変な深田で難儀な作業を強いられていた地域でした。先人たちがこの水と土と戦い抜いてくれたおかげで、今、われわれは素晴らしい食文化などの宝物を享受

できているのだと思っています。

#6

そういう新潟の歴史・特性を生かして、さまざまな食やお酒のイベントが展開されています。今年の「にいがた食の陣」では、中国の総領事館の何平総領事のご尽力で「春節祭」という春節を祝う中国の文化もご紹介いただき、2日間で二十数万人に楽しんでいただきました。また、3月14～15日に開かれる「新潟淡麗 にいがた酒の陣」では、新潟県内にある約90酒蔵が出展して、それぞれの自慢の酒を飲み比べていただけます。首都圏からは、女性グループが新潟の淡麗辛口な酒を求めて集まってきます。2日間で10万人ほど入ってくるような、最大の酒イベントになっています。

#7

そういう新潟の特性をもって食と花で世界に貢献していこうということで、その貢献の一つとして、食をテーマにした日本で唯一の国際賞である「食の新潟国際賞」を新潟の食品関係の企業と共にやらせていただいています。食で世界的な貢献をされて大賞を取られた方には、1000万円の賞金が与えられます。これは新潟市ではとても出せない賞金なので、新潟の企業に出していただいています。また、「国際見本市・フードメッセ」は、地方都市とすれば本格的な食の国際見本市という形で育ちつつあります。

#8

新潟が日本一の大農業都市であることを子どもたちに知ってもらい、まずは子どもたちから新潟の農業の素晴らしさをしっかり覚えてもらおうということで、今年度から全ての小学生に農業体験と食育を提供する本格的なカリキュラムとして、「アグリ・スタディ・プログラム」を開始しています。そのメインステージが「アグリパーク」と「いくとびあ食花」という施設です。

#9

そして新潟は新しいフードバレーをつくろうということで、今、「新潟ニューフードバレー構想」に取り組んでいます。新潟の食品関係の企業は30年あるいは50年前から大きく伸びたわけですが、このフードバレーをもう一度作り直すことを目的としています。そのために農業を中心とした6次産業化を進めていこうということで、農商工連携、食産業の集積・創業、高度な技術・研究開発・人材育成、食品リサイクル、ブランド力と情報発信、フードデザインといった取り組みをしているところです。つまり、農業が苦手なフードデザイン、ブランド力と情報発信、そして環境モデル都市でもある新潟としては食品リサイクルが欠かせないということで、これらを推進していく高度な技術・研究・人材の育成に力を入れていきます。そして、食産業を集積してさらに発展させていこうというのが、6次産業化を進める「新潟ニューフードバレー構想」の構造になっています。

#10

新潟には日本一の大河である信濃川と、それに次ぐ水量を持つ阿賀野川があります。ま

さに日本一大量な水と多様な土から生まれたのが、新潟の港町と田園地帯です。そこで、この日本一の水と土に焦点を当てた芸術祭をやるということ、「水と土の芸術祭」を2009年と2012年にやらせていただきました。そして、2015年には3回目の「水と土の芸術祭」を開くことになりました。これが今回の東アジア文化都市のメイン事業になります。

#11

さらに新潟には、今日のオープニングイベントでご披露いただいた「にいがた総おどり」があり、また、日本で唯一りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館と専属契約した、大変レベルの高いダンスカンパニーである Noism を持っています。そして、江戸時代から続く素晴らしい柳都文化・芸術文化を支える、日本舞踊市山流の宗家家元がいらっしゃいます。さらに、新潟の姉妹都市であるナント市が世界に広めている最も熱狂的な音楽祭である「ラ・フォル・ジュルネ音楽祭」という新しい取り組みも実施しています。ジャズの町でもあるということです。そして、これらを展開する舞台として、りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館は、全国あるいは世界に誇る施設ではないかと思っています。

#12

サブカルチャー、ポップカルチャーも、なかなか面白いものを持っています。その一つがマンガとアニメです。新潟は漫画家や大変素晴らしいアニメクリエイターを輩出したまちです。

また、新潟は夜が暗い、特に冬の夜は暗いというイメージがあるので、新潟の夜をもっと面白くしようということで、昨年あたりから光の演出をかなり大々的に実施しています。「ラ・フォル・ジュルネ音楽祭」に合わせてプロジェクションマッピングをしたり、また、新潟市歴史博物館みなとぴあが面白い建物の形をしていますので、ゴールデンウィークはそこでプロジェクションマッピングをしたりしています。それから、新潟の誇りである萬代橋と信濃川の両岸を光のアートで彩るという演出を始めました。宿泊人口を伸ばす上でも、新潟の夜が楽しいというイメージをさらに発信していきたいと思っています。

#13

このように、新潟市はさまざまな文化創造の取り組みをしてきました。そして、これが文化庁・文部科学省から認められて、今年の東アジア文化都市に選定していただきました。清州市と青島市、つまり中国と韓国を一つの鏡にして、われわれの文化がどのように見えるのかという観点から新潟市の文化をもう一度見つめ直す機会にもさせていただきたいと思います。そのような思いで東アジア文化都市の2都市と共に取り組んでいきたいと思っていますので、よろしく願います。ありがとうございました。

(太下) 篠田市長、どうもありがとうございました。続きまして、韓国清州市長の李承勲様より、清州市のご紹介をお願いしたいと思います。

1-2. 清州市の紹介

(李承勳) それでは、清州市について簡単にご説明申し上げます。今、篠田市長から新潟市が持つさまざまな文化と今後の発展の方向性についてご説明を頂いたのですが、私もこういう資料を事前に用意すればよかったなと後悔しているところです。私が持っている簡単な資料に基づいて発表します。

清州市は新潟市のように分かれていた自治体が統合された都市です。昨年7月1日付で



清原郡と清州市が統合されて、新しい清州市が誕生しました。人口は85万人を擁しています。現在の清州市にとっての最大の課題は、68年間分かれていた地域が再び統合されたわけですから、一つの都市としてのアイデンティティを確立すること、そして一つになって今後の発展を遂げていくことです。そういう意味では、今回一緒に東アジア文化都市に指定された新潟市は統合の

経験を持つ先輩の都市ですので、それを参考にさせていただきたいと思っています。そのような新潟市と同じ東アジア文化都市に指定されたことを、大変うれしく思います。

また、新潟市は農業が発達した都市ということですが、私ども清州市も、全体の人口の2割ぐらゐは農業に携わっています。他都市と比較すると、農業に携わる人口が多い都市です。ですから、都市の面と農村の面の両方を持っています。そういった意味でも、新潟市とは共通の部分が多いのではないかと思います。

都市の面積はソウル市の1.6倍で、首都圏を除けば、韓国の地方都市の中では2番目に大きい都市です。また、清州市を中心にこういった都市が形成されたのは、1500年前のことです。そういった歴史に基づいて、上党山城や龍頭寺址鐵幢竿、文山里石橋といったさまざまな文化遺産を持っているのですが、大変残念なことに、韓国戦争によってかなりの部分が破壊されてしまいました。残されている文化遺産は少なく、非常に残念に思っています。また、私ども清州は世界で初めて金属活字を使って印刷された『直指』という本が作られた町ということで、非常に優れた歴史遺産を持っている地域でもあります。

それから、椒井薬水という湧き水があるのですが、これは世界4大鉱泉水の一つとされています。韓国で非常に尊敬されている王で、現在韓国で使われているハングルをつくった世宗大王が、この湧き水を飲んで4カ月間滞在した場所でもあります。

地理的には、清州市は韓国の中心に位置しています。また、清州市の近くには、韓国政府機関がある大田市があります。最近、こちらへ移転したのですが、この大田市とは30分の距離にあります。つまり、行政の面でも交通の面でも非常な要衝地と言えます。清州には空港もありますし、京部・中部高速道路やKTX五松駅があります。

産業的には、五松という地域にバイオ産業が集積しています。また、IT産業も発達しています。皆さまもご存じかと思いますが、SKハイニックス社の半導体の工場がこちらの地域にあります。また、女性に好かれている化粧品産業も非常に発達しています。LGという企業を含め、さまざまな化粧品企業があります。化粧品、バイオ、IT産業を中心に、産業がさらに発展していくと期待しています。

農業の面では、直指米（「生命の米」）という米があります。韓国では非常にブランドバ

リユーが高く、品質面でも認められている米です。今朝、新潟県の優れた米で作ったご飯を食べさせていただいたのですが、クオリティは同じぐらいではないかと感じました。ですので、皆さんも機会があればぜひ清州にいらして、「生命の米」といわれる清州の米を味わっていただきたいと思います。実は新潟の米の方がおいしいかなと思うのですが、私は清州市長ですので、新潟の方がよりおいしいとは言えません（笑）。ですので、清州の米のクオリティをより高められるよう、今後とも取り組まないといけないと感じたところです。そういった意味でも、新潟市とさらに交流を深めていきたいと思っています。

私どもは今年の9月に「清州国際工芸ビエンナーレ」を開催します。これまで継続して開催されていて、今年で9回目です。18年間にわたって、清州という小さな地域で国際工芸ビエンナーレが開催され続けています。今年はより大きく、より格のある大会に発展させていきたいと思っています。今年はイギリスで活躍されているアラン・ド・ボトンという作家を招待して、特別展を企画しています。そうしたところでも、新潟市、青島市ともさらに協力して、より発展させていきたいと思っています。

もう一つ、ぜひご紹介したいものがあります。新潟市は酒が非常においしい地域として知られています。米もおいしく、水もきれいということで、非常に良い環境を持っているので、おいしい酒が造られているかと思っています。私ども清州も、韓国では非常にきれいな豊かな水を持つ都市として知られています。ですので、皆さまもご存じの焼酎の工場が清州に二つあります。また、ビールも造っていて、おいしい水でさまざまなお酒を造っています。恵まれた自然環境があり、人情深い人々がたくさん住んでいる都市が清州です。ですから、新潟市とは共通点がたくさんあるのではないかと思います。そして違う要素もたくさんありますので、そういった部分をお互い勉強しながら発展させていきたいと思いません。以上です。ありがとうございます。

(太下) 李承勳市長、どうもありがとうございました。焼酎と「生命の米」というおいしいお米もあるということで、新潟市とは文化的な共通性がありそうな感じです。

続きまして、青島市の李文革副局長に青島市のご紹介をお願いします。

1-3. 青島市の紹介

(李文革) お二人の市長から素晴らしいご紹介を頂きまして、青島市、新潟市、清州市は共通性があると思いました。例えば青島市は青島ビールが有名ですから、お酒という点で共通点があります。青島ビールは世界でも有名です。韓国側はストリーミングを流していらっしやいませでしたし、時間にも限りがあるので、私も流さないことにします。

青島市は山東半島にある半島都市です。山東省に属しています。青島市は面積が約1万km²で、人口は900万人近くとなります。6区と4県級市から構成されます。青島市の全体の姿は日本の新潟市と非常に似ているところが多々あると思います。今朝、起きたときに窓から外を見ると、大河が流れていて、奥には海も見えました。非常に親近感を感じた次第です。青島も海浜都市です。海浜都市としての主要な特色は、赤いレンガ、緑の木、そして青々とした空です。赤レンガの建物があって、それが緑の木々、青い空、青々しい海に囲まれています。これが都市の特色を簡単に理解していただけるような表現です。これ

は清時代の康有為が言ったものです。青島市に彼が来たときに、青島市をこういった言葉で表現したわけです。康有為は改革派で、青島市で亡くなりました。

青島市は物産においても大変豊富なものがあります。港湾都市である青島市の取扱量は、コンテナで言うと中国のベスト3に入ります。また、青島ビールも私たち青島の著名な産業です。それから、世界でも有名なハイアール（海爾集団）という家電の企業も青島市が発祥の地です。



さらに、青島市には道教の名山である嶗山があります。道教の発祥の地の一つとされています。ですから、青島市は観光地でもあるわけです。嶗山は嶗山茶（ラオシャンティー）の産地です。嶗山は大量に茶葉を育成できる北限地です。青島市以北ではお茶は取れません。これが物産面での特徴です。

文化や建設においては、青島市は非常に古い都市と言えます。7000年前に青島市の地で人類が生きていた痕跡が見られます。そして、日本でも韓国でも有名な秦の始皇帝は、就任して以来3回も青島市の琅琊台に登りました。そして、琅琊台で徐福を東に派遣しました。徐福は数千年前にさまざまな地を訪問し、海を隔てる日本にも来ました。彼は中日の文化交流の先駆となったわけです。

文化や建設においては、青島市は非常に古い都市と言えます。7000年前に青島市の地で人類が生きていた痕跡が見られます。そして、日本でも韓国でも有名な秦の始皇帝は、就任して以来3回も青島市の琅琊台に登りました。そして、琅琊台で徐福を東に派遣しました。徐福は数千年前にさまざまな地を訪問し、海を隔てる日本にも来ました。彼は中日の文化交流の先駆となったわけです。

青島市は若々しい都市でもあります。市が建設されてから100年余りの歴史しかありません。清の時代の末期に初めて青島市が出来上がったのです。しかし、歴史は非常に長いものがあります。ドイツ人や日本人が占領した歴史があって、それによって東西文化がこの地で交わったのです。また、古い文化との衝突もありました。これが独特の青島の文化をつくり上げています。青島市の人たちは非常に寛容性に富み、オープンです。私たちの言葉では「陽気」といいます。こういった非常に洋々たる文化があります。西洋らしい文化があるということです。ピアノを習っている子どもも多く、10万の家庭がピアノを持っています。青島市では子どもに芸術を学ばせる家庭がほとんどで、ピアノが最も多いのです。また、バイオリンも大変な人気です。中国における国際バイオリンコンテストは青島市が舞台になります。そして、中国でも有名な交響楽団を有していますし、多くの音楽のトレーニング施設があります。呂思清や李伝韻といった、世界でも有名なバイオリニストを輩出しています。このような西洋音楽の文化が青島市の特殊性となっています。

また、映像やテレビや映画の都市でもあります。天然の撮影地であり、何ら舞台を設けることなく、街中でさまざまな撮影ができます。セットが必要ありません。古いもの、歴史的なもの、新しいもの、そして天然の自然があります。そして、多くのムービースターが生まれています。中国で著名な映画やテレビの俳優を100人近く輩出しています。ですから、青島市はロケ地としても非常に有名で、ワンダ・グループ（万達集団）が本拠地を置いています。さらに今、青島国際映画祭を申請中です。中国のオスカー賞に当たる映画祭を青島市で開催したいと思っています。

青島市はセーリングの中心地でもあります。オリンピック・パラリンピックのセーリングのレースは青島市で行われました。非常に素晴らしいセーリングのコースがあります。

そして、青少年のためのセーリングスクール（ヨットスクール）があります。

ここ数年の青島市の建築文化には素晴らしいものがあります。10の区・市を抱えていると申し上げましたが、それぞれが文化機関を設けています。市のレベル、区のレベル、そしてコミュニティレベルで、施設が大変整っています。市のレベルの施設としては、映画館、劇場、舞台、美術館、図書館、文化館といったものが非常に豊富です。区や市にもさまざまなものがあります。そして、コミュニティにおいてもコミュニティ文化センターに図書室、多機能ルーム、トレーニングルーム、映画の放映室などが非常に整っています。そういった施設を舞台に、毎年、市全体で1万余りのプログラムを行っています。

これは文化都市の交流ということでも、私たちにとって多くのリソースを抱えていることとなります。そして、東アジア文化都市に指定されたことは、青島市にとって得難い機会です。今年、私たちは自分たちの特色を出していきたいと思います。音楽文化、映像文化といった特色で、日韓両国の皆さまと交流したいと思います。書画、美術、ダンス・舞踊、演劇、文化遺産、切り絵・切り紙があります。特に踊りには秧歌（ヤンガー）という踊りがあります。秧歌踊は国家レベルの無形文化遺産で、舞踊学院の必須の科目になっています。秧歌踊を必ず受講しなくてはなりません。

文化交流の対象は二つあります。一つは青少年です。青少年向けに、夏季キャンプや芸術の交流を促進したいと考えています。青少年が小さいころからこういった文化の薫陶を受けることを望んでいます。もう一つの対象は市民です。まず、市民に対して青島市を宣伝し、そして市民に家の前もしくは近距離で日本文化や韓国文化の魅力を体験してほしいと思います。そうすることによって、市民の文化生活をより充実させたいと考えています。3都市間の文化交流を強化し、また、市民間の文化交流も強化したいということです。未永く3都市間の交流が続くことを望んでいます。2015年には、日中韓の文化大臣が青島市で会合を行います。そして、それに合わせて文化芸術祭も行われます。東アジア文化都市として、私たちは青島市を宣伝し、青島市の文化を促進させたいと思います。そして、市民の文化生活をさらに満足のいくものにしたいと考えています。日本の新潟市と韓国の清州市と共に2015年東アジア文化都市として認定されて、これはまだスタートラインにしか過ぎませんが、引き続きこういった活動を継続して交流を永続的に展開していきたいと思っています。以上です。どうもありがとうございました。

（太下） 李文革局長、どうもありがとうございました。今ご紹介いただいた秦の始皇帝がアジアに派遣した徐福ですが、日本でも各地に徐福が来たという伝説が多数残っています。



す。そういった意味で言うと、われわれはこの東アジア文化都市という事業を通じて、現代の徐福になろうとしているような気がします。

本当はもっといろいろとお話を伺いたいのですが、今日はかなり時間が押しているようです。このパネルディスカッションは時間を調整する役割も担っているのではないかと思いますので、次の私か

らの問い掛けが、多分、パネルの皆さまにお答えいただく最後の発言の機会になるかと思
います。これから3都市で東アジア文化都市に取り組んでいくわけですが、どういう文化
交流をしていきたいかということをお伺いしたいと思います。また、今日もいろいろな公
演などを楽しませていただく予定ですが、どんな文化を他の都市に紹介したいのかとい
うことについても、ぜひお聞かせください。

先ほどと同じ順番で、まずは篠田市長からお願いします。

2. 「東アジア文化都市」としての今後の取り組みや交流について

2-1. 新潟市の今後の取り組みや交流

(篠田) 今、お二人からお話を聞かせていただいて、一番やりやすくて楽しそうなのは
酒を含む食文化交流だと思いました。これをしっかりやらせていただきたいと思
います。そして、われわれはやはり未来につないでいくわけですので、青少年交流には一番力を入
れるべきだと考えます。フェース・トゥ・フェースの本当に肌と肌が触れ合えるような形
での交流をして、その効果が一番出るのが若者たちではないかと思
います。ですから、青
少年交流にはスペシャルで取り組んでいきたいと思
います。

また、私どもは伝統文化あるいは歴史を感じさせるものを中心に番組を組むわけですが、
今回のオープニングイベントでは、あえ
て Hilcrhyme というこれから日本から世
界へ出ていくのだという意気込みのラッ
プユニットにも出ていただきました。そ
のときに李承勳さんからも言われたので
すが、そういう新しいものが出てくると、
歴史を感じさせる伝統文化との対比、ま
た、新潟市はこれからどういう方向へ進
んでいこうとするのかというものを感じ



させます。こういった若者文化あるいはポップ文化、それから新潟市にはアニメやマンガ
などもありますので、アニメ・マンガ交流もこれから考えていきたいと思
います。こんな
ものは効果があるのだろうかとも思ったのですが、フランスのナント市では大人気で、ま
た、ウラジオストクやハバロフスクでもマンガ・アニメのワークショップに大勢の若者が
集まりました。ですから、そのあたりも新潟市の特徴として出していきたいと思
います。

青島市は議会の方も交流してきた、いわばなじみの町です。一方、清州市はわれわれに
とっては今まであまり交流がなかった町です。新潟市民の中にも、清州市に行ったことが
あるという人はそれほど多くないと思
います。そういう面ではまさに港町の2都市と違う、
さまざまなものをお持ちのはずです。ですから、清州市がどんな内陸文化をお持ちなのか
についても非常に興味があります。似ているようで違う、違うようで似ているという日中
韓の文化交流によって自らを見つめ直すような交流をさせていただきたいと思
っています。
よろしくお願
いします。

(太下) 続きまして、清州市の李承勳市長、どういう文化交流をこれからしていかれる

つもりかということをお聞かせください。

2-2. 清州市の今後の取り組みや交流

(李承勳) 篠田市長と中国の李文革副局長からもお話がありましたが、そのような枠組みの中で3都市が協力していきたいと思っています。

まず、私ども清州市は規模がそこまで大きくはありませんが、多くの芸術団体がありま



す。市の方で直接運営している団体、オーケストラ、舞踊団、合唱団があります。午後に公演するのが、私どもの舞踊団です。私どもの市で直接運営している四つの芸術団体があります。他の2都市と協力しながら、こういう舞台でお互いに持っている文化的要素と価値を高めていきたいと思っています。

また、清州市は、先ほど青島市もそうだと紹介がありましたが、韓国国内ではドラマのロケ地としても非常に有名な都市です。日本でも中国でも放映されていると聞いているのですが、「製パン王 キム・タック」というドラマは清州市で撮影されています。それ以外にもさまざまなドラマが撮影されているのが清州市です。さらに、韓国には非常に有名なドラマ作家である金秀賢という人がいるのですが、彼女のふるさとも清州市です。ですから、ドラマを中心とした文化においても協力できるのではないかと思います。

それから文化面から見ると、まず、伝統文化があります。そして、ポップカルチャー、庶民文化もあります。これらの文化が非常にお互いバランスよく発達しているのが清州市です。伝統文化と大衆文化（庶民文化）が調和しているということです。ですので、伝統的な芸術世界だけではなく、その時代を生きた庶民がどういう生き方や暮らし方をしたかということに関してもお互いに理解を深める機会をつくっていききたいと思っています。

他にも、私どもが持っている特徴の一つとして、今年の清州の祭りでは「生命の都市」をテーマに掲げています。これから人が生きていくために一番大事な価値が、都市開発の中で導きだされるべきだということです。そういった生命の部分が今まではおろそかにされていたのですが、これからどんどん発展していく清州市は、そこに住んでいる人により焦点を当ててより大事にしていきたいという意味で、この東アジア文化都市という取り組みを通じて、命の大切さと暮らしの質を高めるといふ部分に重点を置きたいと思っています。そういったものをテーマにして、さまざまなプログラムを策定しています。開幕式典では、町の道全体を麦で飾るという演出をしたいと思っています。寒い冬でも命を維持するもの、生き延びる強い力を持つものとして、麦を一つの象徴として飾りたいと考えているのです。つまり、さまざまな困難の中でも生きていく力を感じてほしいのです。また、1年経過したら、われわれがどういう成果を遂げて、どういった実を結んだのかを象徴するものとしても、麦を使っていききたいと思っています。

今後共有していきたいのは、市民の参加を促すということです。先ほども申し上げたよ

うに、清州市は今まで分かれていた地域が統合されたので、一つにまとめることが非常に重要な課題になっています。また、欧州文化首都でも紹介があったのですが、そこに住んでいる市民同士の団結が非常に大事だと思います。それと同じように、私ども清州市も、この文化都市のイベントを行う際に、市民が直接参加する市民参加型のプログラムを目指していきたいと思います。市民中心、庶民中心、お互い共存するもの、生命を大事にするイベント、暮らしの質に焦点を当てたプログラムといったことを、この東アジア文化都市の取り組みに盛り込んでいきたいと思います。

(太下) 生命や市民参加といった非常に重要なキーワードを頂いたように思います。続きまして、青島市の李文革副局長からこれからの文化交流の話を頂きたいと思います。

2-3. 青島市の今後の取り組みや交流

(李文革) 2015年における活動について、時間の関係上、駆け足で申し上げます。先ほど、青少年を対象に活動を行いたいと申し上げました。お二人の市長もおっしゃいましたが、私たちは日中韓のアニメのクリエイティブ分野では世界をリードしています。私たちは4月～10月に、日中韓の在校大学生のアニメ創作コンテストを開催したいと考えます。日韓の大学生でアニメを作っている方に青島市に来ていただき、コンテストで交流することによって、青島のアニメ産業の発展にも寄与していただきたいと思います。

私の息子は今年、高校3年生で、もうすぐ大学受験をしなければなりません。ですが、そうした緊張感のある中で、こんなに忙しいのに、毎日アニメを見ています。日本のアニメには多くのシリーズがあります。また、妻は韓国ドラマが好きで、涙をぼろぼろ流しながら見えています。そして、目じりが下がるのを防ぐために、韓国に行って美容をしたいと言うわけです。いずれにせよ、こういったアニメの交流コンサートを3国間で実施したいと思います。また、日本の新潟市と韓国の清州市と共同で、絵画展や美術展、書の展覧会を催し、交流できればと思っています。さらに、青島市の交響楽団を交えた音楽交流もしたいと思っています。私どもは今持っている文化のブランドを背景に、毎年、「中国（山東）工芸美術作品博覧会」というものを青島市で開催しています。これは、中国の国家レベルの工芸品の博覧会です。ここに日本と韓国の工芸品の専門家や企業に来ていただいて、東アジアのブロックを設けて展示していただき、日本と韓国の素晴らしい工芸品をぜひご紹介していただきたいと思います。



また、この夏休みに、キャンプを三つの地の青少年間でできないでしょうか。そして、切り紙や民間の伝説などの無形文化遺産を青少年に体験していただければと思います。それから、夏のキャンプのプログラムとして、中日韓の児童の演劇の発表やコンテストをしてはいかがでしょうか。青島市の児童劇は非常に特色あるものですから、児童の演劇もテ

ーマにしてはいかがでしょうか。

そして、第7回日中韓の文化大臣の会合に際し、芸術祭も開催します。そのときは、青島市で日本や韓国の素晴らしい映画も放映もしたいと思います。

それから、青島国際ビール展をこれまでに30回も行っています。毎年、数百万人が参加しています。ビール祭のイベントにはさまざまなものがあります。例えばビールを何秒で一気飲みできるかという時間を争うプログラムや、飲む量を争うプログラムがあります。新潟市と清州市の代表団にもぜひビール祭にも参加していただき、そういったイベントにも参加していただきたいと思います。

東アジア文化都市は3月9日に韓国の清州市で、そして3月下旬に青島市で開幕し、12月に閉幕式が行われます。東アジア文化都市2015の閉幕式は、東アジアの3都市の文化交流のスタートでもあると思います。全体的に見て、今年のイベントはそういうものです。

最後に、青島には10の区・市があると申し上げました。今回の代表団には幾つかの区・市のから代表が来ています。区・市も開催する際に東アジア文化都市のコンテンツや考え方を導入したいということで、より豊かかつ多彩にやりたいという要望が出ていますので、ぜひともよろしく願います。どうもありがとうございました。

(太下) ありがとうございました。李文革さんのご家庭では、既に日中韓3カ国の文化交流がかなり進んでいるようで、素晴らしいと思いました。

もっとお話をお伺いしたいところですが、すっかり時間が過ぎてしまいました。先ほどの講演で、私は東アジア文化都市という事業はノーベル平和賞に値する事業ではないかというお話をしましたが、ぜひこれから半年間、狭い意味の文化事業としてではなく、これが未来への投資になるのだという思いで取り組んでいただければと思います。

それでは、以上でパネルディスカッションを終わりにさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

(司会) ありがとうございました。パネリスト、コーディネーターの皆さまにいま一度大きな拍手をお願いします。

それでは10分の休憩とします。休憩後は、清州市、青島市、新潟市の芸能団による各国の伝統芸能をご覧くださいので、どうぞお楽しみに。



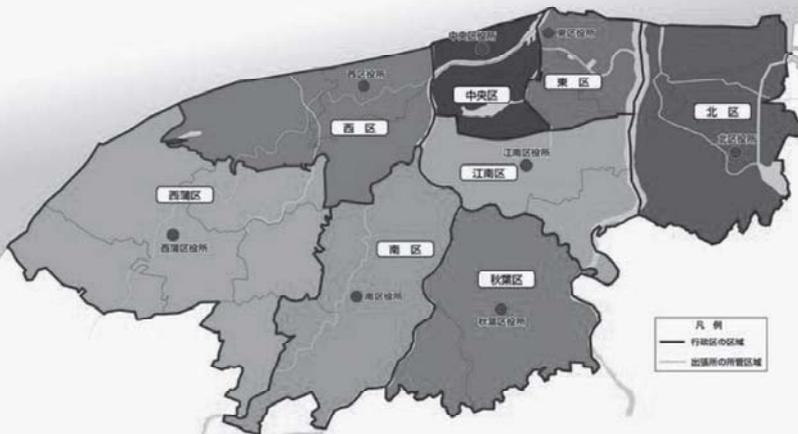
文化創造都市 に い が た

市民力に基づく文化創造のまちづくり

2015.2.27 「東アジア文化都市2015新潟市」オープニングシンポジウム



広域合併 多様な文化の共存



- 2005年
14市町村合併
- 2007年
政令指定都市移行
8行政区の区政施行
- 人口 804,315人
(2014年末)
- 面積 726.1km²

広域合併 多様な文化の共存

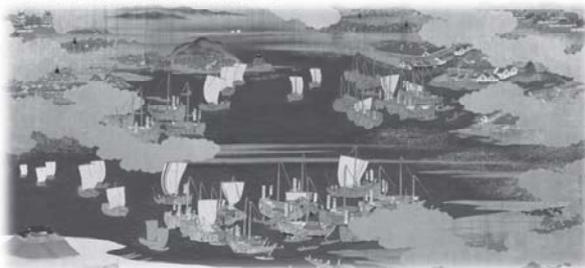
◆日本一の田園に根付く豪農文化

◆おもてなしの柳都文化



活発な交易 育まれたみなとまち文化

■北前船の最大寄港地



■古町芸妓



■料亭文化



水と土の恵み 豊かな食文化



食文化を活用 創造的まちづくり 食・酒イベント

■にいがた食の陣



■にいがた淡麗 酒の陣



食文化を活用 創造的まちづくり
食と花の世界フォーラム

■フードメッセ
(食の国際見本市)



■国際シンポジウム

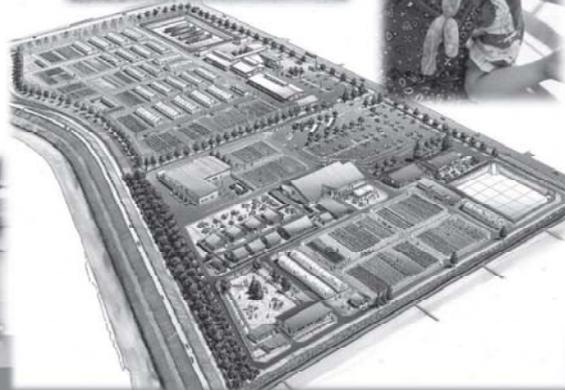


■食の新潟国際賞



食文化を活用 創造的まちづくり
にいがたモデルの教育ファーム

■食と花の発信～様々な体験を通じた子どもたちの育成



■農村と都市の交流～農業の活性化



食文化を活用 創造的まちづくり 新潟ニューフードバレー構想



市民力に基づく水と土の文化創造

水と土の芸術祭

Water and Land Niigata Art Festival 2015

■市民プロジェクト

■アートプロジェクト



優れた踊り文化・舞台芸術

■踊り文化



市民力で江戸時代の祭りを復活
にいがた総おどり



新潟市無形文化財
日本舞踊市山流

日本初 劇場専属ダンスカンパニー Noism



Noism1『ASU~不可視への献身』(2014年)より 撮影:篠山紀信

■音楽イベント



新潟ジャズストリート



ラ・フォル・ジュルネ新潟
「熱狂の日」音楽祭



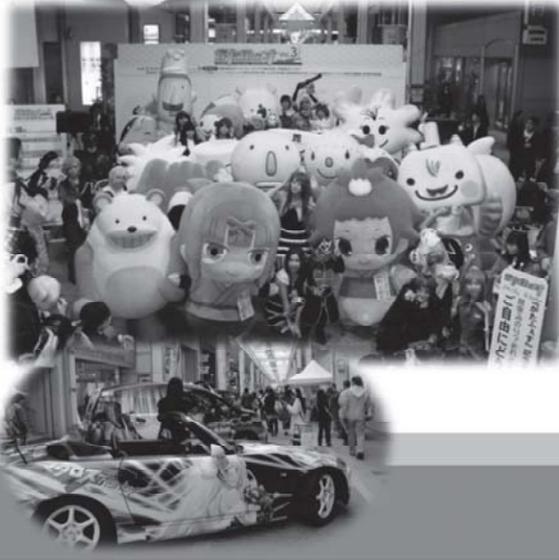
舞台芸術の発信拠点
りゅーとぴあ
新潟市民芸術文化会館



文化の創造性をまちの活力に



■マンガ・アニメを
活かしたまちづくり



■新たな文化
光のアート





2015年 東アジア文化都市

文化を基軸に発展し
世界に開かれた東アジアの交流拠点へ

ご清聴ありがとうございました。